

武教全書口訣
介候
八

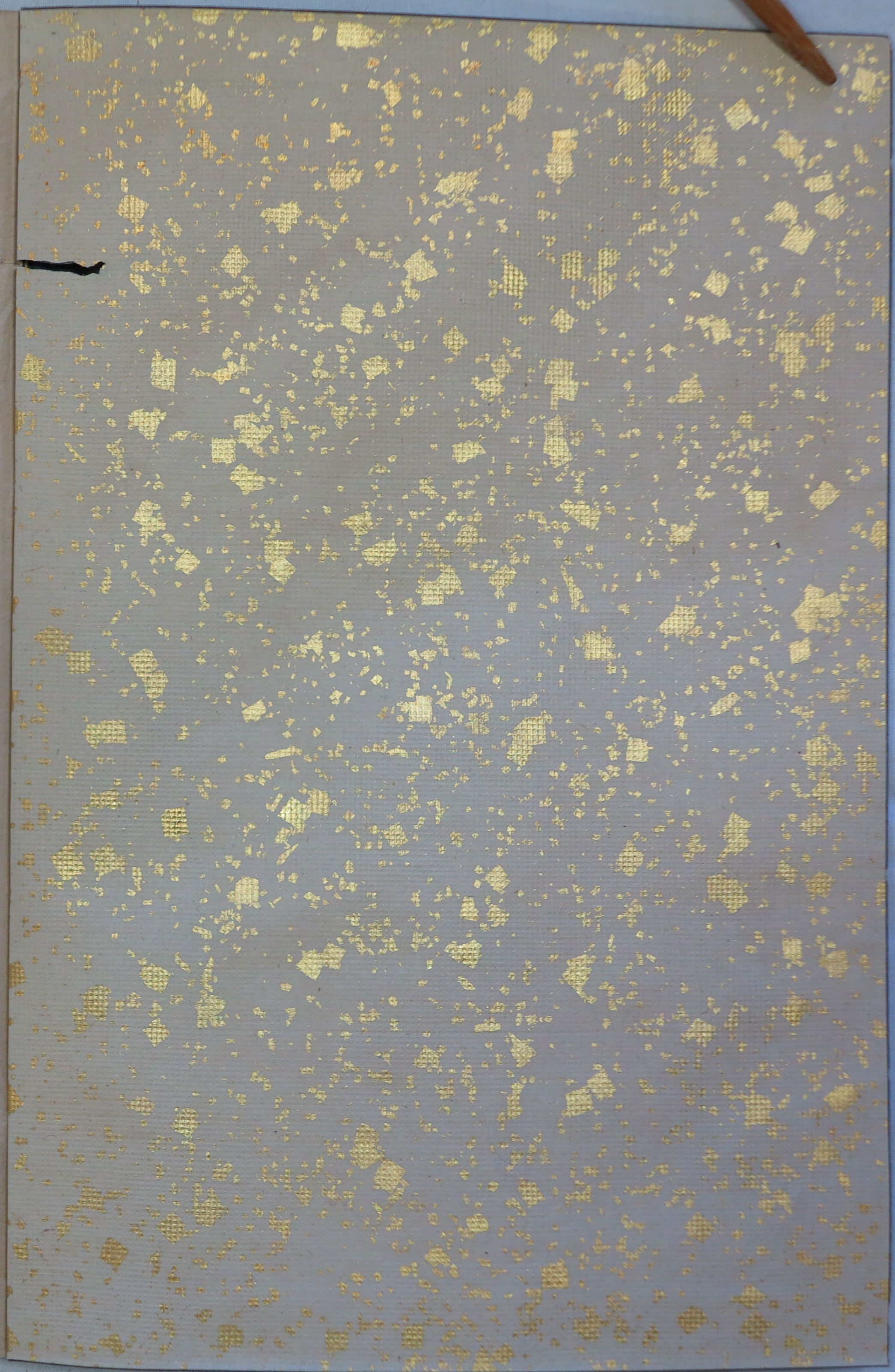
蕪湖圖書館	
部門	七乙一
番號	
冊數	二八

武教士書

介侯

ウカハヒウカコフトヨハ物見ノ下也
彼我カイニタ備ヲ不ム以前式ハ其間
遠キ氏スヘテ骨立ヲツカハシテ款ノ
上ヲハカリ地理ノ鏡ヲ窺フ是ヲ作侯
ト云也其物見ノ下ヲトク

物見武者ヲ可撰事
物見ニツカハス人柄ヲ工フフ下行要





武教全書口訣

△作候

石共好入直野地動動之入也

ウカノヒウカコフトヨム物見也

昔彼我ノ不三夕備ヲ不出以前或ハ其間

遠キ氏不余于勇士ヲツカヒシテ款ノ

合上ヲバカリ地理ノ類ヲ窺フ是ヲ作候

蘇ト云也其物見人子ヲトクハ年毎大

△物見武者ヲ可撰事

元也動動ノヤリ

物見ツツカハス人柄ヲ工ラフ了肝要

ナリ故ニ第一ニ云
一 物見ニ可遣武者ハ武邊場教アリ
様子ヲ見切地取ノ善惡勝負ノ午立ヲ見
分ルヲ不知者ニハ不可見夕トヘハ場
教少ク氏弓矢ノ正理ニ賢ク忠義信了ル
者ヲ可申付事
大カイ聞ヘタル通也弓矢ノ正理ニ賢
ナキハ兵法ノ道理ニ通達シタル人也忠
尤善全ノ爲ニ我忠ヲ尽シ自身ノ功名ヲ

思ハカルト也美ハ武美也
鉄石ノ如クニメ他志ヲウハスレサ
ルモノ也信ハ眞実ニメ虚言ヲイハス
輕薄ナラサレ也如此人ニ物見ヲ申付
ハ軍ノ勝敗ノカ、ルカノ大役ナレ
ハ其人柄ヲ撰フ所要ナリ
一 物見ハ使武者也或ハ足輕大将或侍大将
モ勤ル也二度三度之物見モ了ル也
敵良將ナカレバ伏兵ナク疑ナレ

礼十十八一度ニテハ計ラレ又也故ニ
二度三度モ人柄ヲカヘテ遣シ人ノ
云礼同不同ヲ辨理非ヲ考ミル也
一 御大将見定ニ御巡見ハ侍大将イクタリ
モ供奉之事

其取ノ趣ニ依テ大将見定ニ出玉フ下
アリ其取ハ士大将幾備モ供奉スルカ
宜キ也款ノ上ヲ批判ヲナス爲且ハ款
ヨリ伺フニモ同ニ如キ備教多アレハ

一 見述ヒテ大将ト云下ヲ見分ル下ナラ

一 申カル下ナラ

一 侍大将物見ニ出ル時馬驗二本ノ内一本
持スル事

一 士大将ハ經馬印二本持也馬印ヲ持ス
ル也其午ノ士卒ハ下トヒニ付居ル也
馬印ニテ大将ノ居ルヲ知ル也

○物見三段之事
大中小ノ三ツ也款ニヨリ礼ニヨリテ

用之十

一 大物見 能馬武者ハカリヲ揃ヘ全ク物見ヲ致スヲ云也

是ハ百騎ヨリ千ニテモ遺ス也小人數

ニテハ款近ク進テ款ノ様子地ノ理十

林ト季シク見積リ難キユヘ是ヲ用ヒテ

林全ク見セシムル也

一 中物見 大物見ヨリ人數少ク出ルヲ云

十

一 其夏兵付テ其只カハ

物見用ヒ難キ如小物見ニテハ委シク

見切難キニ用之人數三四十カ

リモ用ヒナリ

一 小物見 平五騎ニ騎五キ十キ迄モ小物見

一 大云ナリ用ヒ

如昏右ノ物見ニ三段了ルヲ云物

見ノ仕方ハ次ニ出セ

○大物見心得之事

大味方ノ人数分限ニ應シ中ヲモ大トス
ルヲモアリ大物見ハ大身衆ハカリト
思フヘカラス

一 大物見ヲ用ル所之事

一 小廣原平陸場ヨシノ如小人数ニテハ委

シク見切難キ如ニ用ユ或欲小勢ナラ

ハ篤々大物見ヲ出シイキヲヒテ余

一 其氣ヲ棄フコトアリ

一 款ヲ手引取ハ胸勢ニ口傳テハナシハ大

款出テ戦ハス我カハツテ公利ナキ也

杯款ヲ引出ス為ニ用ル也胸勢ニ口傳

トハ右ヤウノ如ク胸勢ヲ付テ出ス也

大物見軽々ト款ニ行カズ也款是ヲ

討留シト討テ出ル如ク引取テ

一 此款是ヲ追討テ胸勢ヲ以テ討之也追

者ハ乱レ胸勢ハ全シ故勝利ヲ得ル

或ハ款將軽々シク遠慮ナキト用

之テ款ヲ引出シ討之此胸勢ハ款ヲ手

引氏ハカリニモ非ス危キ場十トハハ
知ニヨリテ物見ニ添テ遣ス也
伏ニ用ルトモアル也

一所ニ寄馬足輕ヲ用ル也

馬上達者十ル一己ノ侍ヲ古ハ馬足輕
ト云前条ノ如ク用ル氏其知足場ヨキ
氏ハ大物見ニ歩兵ヲ加ヘス馬足カ
ハカリテ用ヒサテ右ノ通剛追款ヲ
一 朧勢云云ツリ物見武者ハ左右ニ乗

長カレテ引返シテ款人備兵馬ヲ入シム

上ル也如此取用ル也

一 款云ヨリ大物見遠慮之事

一 剛款人切者十ル年輕大將其トハ子細

一 十クメ大物見ヲカクル氏ハ物見ノ人

數朧勢ノ多少ヲ見切毎ニ戦ヲ始ル

氏ハ味方却テ敗軍ヲナスモ也故ニ

遠慮ヲナスヘキト也或款將思慮少キ

一 又寄合大將十トハハ用テヨキ也

○繫物見之事付相圖ノ物見ハ変トナシ
 本物見ハ兩人在ケ物見ヲ添テ遣スヲ
 云此三人相圖ノ物見ヲナシテ知セ合ヲ
 所相圖ノ物見ト云也本文ノ如シ
 一 繫物見ト云ハ小物見ハカリニテハ四方
 へ心ヲ配リ目ヲ付地敵ノ陰易ヲ見ハカ
 一 或ハカニハ用心ニ心ヲ付手間ヲ取
 二ハ三助物見之武者ヲ二騎出シ約束ヲ
 定メ行ヲ云也馬乗ヤリ心得取リ人乗ハ

○大カバ在登如馬乗ヤリハ本物見ハ
 中筋本道ヲ乗行ハ物見ハ左右へ別レ
 一 又眼道ヲ乗行場ヲ廣ク地理伏茲ヲサ
 クリミル也疑シキヲアレハ本物見馬
 ヲ扱テ待ツサテ伏アラハ馬ニ輪ヲカ
 一 夕ハシ或ハサシモノヲスキテフルハ
 一 三トハ約ヲ定置ヲ相圖ノ物見ト云
 是ヲ以テ又物見ヨリ通スル也子細十
 一 五片ハ左右ノ物見本物見ノ跡ヲ乗ヤ

カヘテ本物見ヲ先ヘス、セ行如此
象午カユレハ子細ナシト心得ルナリ
从物見ハ本物見ヨリ先ヘハス、ムハ
カラス是敬ノ心ナリ又云夕トヘハ尤
方ニ疑シキナレハ右ノ从物見尤
行テ伺フヘシサスレハ伏アレハ物
見見付タルユヘ如此ト心得テ自然ト
アラスハ也
○送り足輕迎備之事

一 大中小各物見在而款百ヨリ知番及リ時
分ニヨリテ送り足輕迎備之事

弓鉄ノ足輕一組ニ組其物見ヘ付ツカ
ハシ危キ場ニテ備シタル全ク物見ヲ
ナサシムルヲ送り足輕ト云款ニ送小
足輕クヒトメラレテ得引トラナル氏
ニ又十備ニ備アトヨリ出少款ヲ押ヘ
引トラシムルヲ迎備ト云送り足輕ア
ル氏ニ限ラス迎備ハカクモ用ルヲ

ルヘシ足輕大将物見ニ出ル氏ハ危キ
物ニハ五人三人足輕ヲ残ヲキ物見ヲ
十ス下モアル也款ニヨルハ剛款ニソ
輕キ款十ト二用工ヘシ処ハ四方キラ
キラニテ場ヨシノ処又云衆中サハハ
リ多ク款不意ニ可出処十ト時ハ朝キ
リ深ク士方不明收節人此不也
○物見只々之事五
一三者之事力キ物聞目付ヲ三者ト之又

一之檢見見分作候ヲ五三者ト云初後人心
得只傳了外事也

力キハ款国下入込民間十ト紛居テ
物沙汰風聞ヲキハ出スナリ真ヲ二ホ
ヒ付ルト云ノ只口也夕トへハ款此
度我国ハ攻来ル吟味トキコへ其用意
一息下ルト云下ヲ聞出テ通スル也物聞ト
云盛个日云々款攻来ル下疑ナシト其事
事実ヲ聞届ルヲ云目付ハ款ノ人数ハ力

ホト道ス千ハ何レヨリ来ルハ
居小如此ト云ルニ目ヲ付見ツモリ歸
ルヲ云右ノ三ツヲ初ノ三者ト云ナリ
檢見ハ弥人数イカホトニテ何日ニ
立タルト云ル其实ヲ見届ルヲ云見分
以款押来ル道筋行列何日ニ何レノ宿
迄着スル云ナリ見テ追々通スル云
辨存候ハ彼我相對ノノ物見也右ノ三ツ
一ニ身後ノ三者ト云也

一 遠侯之事 遠侯ニ半ハ備ヲ用ルアリ城ヲ
用ルアリ也

遠方ハ人ヲ出シ置テ款ノ上ヲ伺ヌヲ
云一人二人ニテハ叶ハル工ハル
ヨリテ備ヲ出シ置或ハ城ヲ築人数ヲ
籠テ款ヲ伺ハシムル也

一 恐 款國へ往来セシメテ事ヲ聞テ恐
云人人工ラテ恐ノ習有之事也 是又款
事ヲ伺知ノ一員也

陣中城中十トヘヒソカニ恐ヒ入テ伺
ヲ云コレニ用ル人カラハ極テ忠信正
直ニメ才智アル者シカモ見カケ祭明
ナラサル人ヲ用ユ其術ハ敢テ変或ハ
登テ越又ハ城戸ノ明マウノ類スヘテ
忍ノ習其家ニニ傳來有之モノ也近
江国伊賀ニ甲賀家ニ傳フト云其家ニ
用学フ下シ

○小物見馬彙様之事

一 場ヲ廣ク見行事付千鳥掛之事
一 下驕物見ニ云々タル氏ハ馬ヲ入り彙
シ場外ヲ廣クシル下肝要也左右千ト
リカケニ彙カヨキ也款伏十トアル
氏其方ヘ彙ユケハ伏見付ラレタルカ
トウタカヒテ伏アラハル、モノナリ
一 初中後馬彙様之事
初後ヲ用ニ中ヲ早ク彙也先此方彙出
ス氏用ニ次第ニハヤメ款近ト付ト又

シツカニノル也然ラサレハ小者モ馬
モツ、カス不意ノ用ニ立又也備右ノ
如クナレハ武者フリモヨキモノナリ
一 馬ヲ堅横ニイタス事

款ヲウカユフ氏馬ヲ横タヘテ左ニカ
ヘリミテ伺フ也款我ヲ討留シトスル
氏引カヘメカヘル夕メ也其処ホリ道
于飛テ急ニカヘカレカルハ衆着
一 先馬ヲ引ニハシテ益ウシ口ムキテ

車見ルヘシ此ヲ堅横ト云ナリ

一 輪衆又引カヘス敗心得之事

馬兵息ヲ入ル爲也輪衆ヲスル氏又引
カヘス氏氏ニ右ノ方ハ馬ヲセハス也
是心得也弓手ヘニハセハ押付ラ款ニ
見スルユヘ也

一 カニリ場馬衆様之事

伏英ノ地ヘアニリ近ヨレハ却テ見ヘ
又モノ也故ニ四五十間モアヒテ置テ

スカミ見ルカヨキ也林木衆中ノ中モ
ヨク見ユルモノ也借途ヨリ見レハ伏
做ニ因テアケルト馬驚キテアシキ也
行クハ伏無之カヘル氏ハ伏アル丁ア
リ其氏ハ氣ヲツケヌノ速ニハセカヘ
ルヘシ氣ヲ付レハ伏起リテカヘル丁
ヲ得ナル也

一行敗父四方ヲ見歸ル氏ハ直ニ衆ルヘキ
事良也

人カヘリテ行敗不詮サクニテ疑
ルコルニハ也必行敗ニ能ク見ツモリ
歸リテハ速ニスルカヨキ也
右各口傳

○物見武者見積ルヘキルノ事

一沼池田切足入大小山大小河原藪道廣狹

木立カケ伏兵ノ場村里ノアリル

如此場ルヲハ能氣ヲ付見積ル丁所要
也夕トハ此山ハ敵得テハ詮ナク我

得レハ利アリ或ハ害アリ伏ヲ置ニ便
アル或ハ十シト云類ノ丁ヲ氣ヲ付考
ヘキナリ

○物見ニ出テ人数見積之事

一 一人ヨリ上ノ見切之事

夕ト合ハ前足輕五十人トミル暇ヨリ

五段トミル片ハ則五々二百五十人ト

見積ルヲ云

一 人数ハカリ并之事

其場所ノ間数ヲハカリ并数ヲサシ用

シテ一坪何人ト考ミルヲ云是ハ其如

ヲシラサレハ積リ難シ一坪ニ五人或

ハ十人十六人十ト以テノ節ニ当テ

考積ルナリ

一 立クラヘノ事

味方ノ備ト見クラヘテ款ノ人数ヲツ

モル也

一 遠近廣狹高下ニ依テ心ヲ付ヘキ事

一 遠ハ小勢ニミヘ近キハ大勢ニミヘ廣

キ知ハ小人数ニミヘ狭キ知ハ大勢ニ

見ヘ高キ知ハ見切難ク大勢ニミヘ低

キ知ハ小勢ニミエルモノナリ此知ニ

心ヲ付テ能ク考ヘキ也

一 敵ノ人数大将ヘ申上ル心得之事

二十三十五十百モ知ニヨリテ見ケル

エルナリ公積リヨリハ少ク大将ヘ

一 申力ヨキ也エハ自然見積リヨリ小

一 勢ナルハ心臆シタルエ見ケルヘ

一 勢ナルハ批判ニアツアルモノ也

一 物見ニ出敵ノ人数ヲカク事

是大將ト紛ヲナシ置テ五百モ千モ味

方ノ聞知ニテハ少ク云フ也是味方ヲ

勇ニセ勢ヒヲ付ヘキタメ也

一 見セ備見セ旌山林之間ノ隠シ勢動弁之

事

見セ備ハ小ヲテナリテ備ル也難人

トトノ見セ備ハ仕方ニテモシル、モ
ノ也ミセハタハ並揃テ不勤也隠勢ハ
小勢ニテ午ツヨキ働ヲナシ或ハ山林
ノ間へ人馬往来シケク或ハ相圖ノ旌
アリ或ハ敵ノ人数思フヨリ小勢ナ
類ヲ以カニ弁スへシテ
一 英物見只々之事 是ハ伏戦ニ出セリ
△物見武者武功之事
一 物見五ツノ見切之事 進ム退クユルカ

サハ人教見切同勢見切

進ム敵ハ中後ハ勤カサレハ先陣ウ
ク也退敵ハ先中ハ勤カサレハ後陣ウ
ユクヘシユルカサハ先後ハ勤ハ
中ウコカサルモノ也人教見切ハ顯ニ
敵ノ備タル人教ヲ視テ知テ云胴勢見
切ハ察ノ場也現人教令限ヨリ小勢ナ
ルハ外ニ胴勢ハナキカト觀察ノミル

ナナリ

一 不動款味方ヲ待色其虚実ヲ知事

款動クヲナクメ味方ヲ待トミエル其
備地ノ利ニヨリ士卒シツカナルハ此
味方ノ色メクヲホント実ニ待款ナリ
士卒跡ヲカヘリミ指物ウコキ旌色宜
カラナルハ是我ヲ恐レテ引モ進モセ
サル款是虚也

一 退款実不実ヲ知事

実ニ退ハホ負テ敗走スル款也備ソ、

口ニメ隊伍調ハス一騎二騎思々ニ退

久也不実ハイツハリ負テ計策ニ退款
隊伍不乱ノ丸久成テ退ク也

一 款ノ陣取善シ悪シヲ見分之事

方圓八陣ノ法ニ叶タルハ善也首尾ト

トノハス或ハ近ク或ハ遠ク陣取タル

ハ悪也カコト惣筈カキハ善也年丈夫

ナルハ悪シスヘテ陣法ヲ得悟セハ

加ノ望カラ善悪分明ニシルヘシ

一 城ノ堅固不堅固ヲ見分之事

塙ノ折ヨクノ横矢ノ拂ヒヨキハ堅固也
不堅固ハ其ウラ也又ヘテ城築ヲ能
會得セハ堅固不堅固分明ナルヘシ

一 敵ノ備其善悪ヲ見分之事

敵前後左右ノ救應法ニ叶ヒ一軍ニ陰陽ノ

半組調タル是善ナリ悪ハ其ウラ也味

一 退方ノ備ヲシラハ敵ノ備ハ分明ニシラ

ルヘシ

一 敵戦ヲ持不持見分之事

持ハ諸士居リ立テシコ口ヲカタムケ

得道具ヲ引サケ将ノ下知ヲ待色ニ見

ユル也

不持ハ備ウキタ午テ跡ヲカヘ

テ見ユル也

一 備シクラム事同スミヤカナル事

天官ニ云カ如シ香山ニ霞カ、リタル

如ク人氣アカリテコニカニモハス力

ナルヲシクラムト云ヨキ備也秋冬ノ
景色ノ如クサヘカヘリテ残ル処十ク
ミヘスクヲスミヤカナルト云悪キ備
十リ

一 中ノニコリノ事同一重カハノ事厚キ事
シクラムトスミヤカナルトノ間也善
人内ニ悪人内ニ善アリテ大
将ノ仕方ヨリテ善悪ニカタツクヘ
備キトシタルヲ云ニ重カハハ胴勢履リ

ノ備モ十ク一重ニ備タルヲ云又云一

一 重ニ戦ヲ持タルヲ云ト也厚キハ幾

段モ備テ一重カハ十ラサルヲ云右ノ

両条ハ軍中ノ詞十リ

一 退款陣取款見分之事

退款ハ物見ヲス、メス小荷駄ヲ下サ

一 陣具ヲモトラス備ウキ立テソ、口

二 見ヘ後ハ人ノ往来アルモノ也陣取

款ハ小荷駄ヲ下シ兵糧ヲツカヒ四方

へ物見ヲ出シ陣場ヲ見立陣具ヲ取セ
十トスルナリ

一 對陣之款可掛掛間敷ヲ見分之事

旌差物ヲモ陣ニカサラス物見節々性

来メ士卒静ニキヲフハ掛ル款也陣ニ

モカリヲユヒ土居サクナト付ルハ是

味方ヲ恐レテ不掛ナリ

一 款ノ退様働ヤウニテ遠慮之事

退款ノ実不実前ニ云カ如トイヘ凡款

一 又偽テ隊伍ヲ乱思々ニ退キテ実トミ

セルコトアリ然凡モトヨリ偽ナレハ相

圖子ルユヘニ一人モ止ル者ナシ実ニ

敗走スル凡ハ義ヲ重ニスル者ヲミ止

ツテ討死ヲナシ或ハ防戦ヲナスモノ

也此働ヤウヲ以高遠慮ヲナスヘシト

ナリ

一 怠ル款ツ、シム款見分之事

小物見節々出シ夜中ハ両カミリカキ

物聞ヲ出シ万変最重ニ守ル是慎ム也

急ハ其ウラ也初メハ慎テモ次第ニ

二草臥レテ急リ生ルモノ也心ヲ付ヘ

キナリ

一 城ヨリ敵出ル不出見分之要

城内ニカサルヘキ旌十トカサラス或

ハ長道具動クハ出ル也小口キハ動ケ

トモ内ノ旌差物動カサルハ不出也

一 川ヲ越ス敵不越敵見分之事

一 馬上ノアヲヲハツシ歩兵ハ下散ヲ

夕ニミ執ヲトリ馬上棄メクリ丸ク十

リテ川上ニ進ムハユス敵也川ニ臨テ

備ト云凡水ニ寸ハル物ヲノケサルハ

不越敵ナリ

一 野火ト烽火ト見分之要

野火ハ烟白クテ折ナヒキテ定リナシ

烽火ハ烟黒ク直クニ高ク立テ紛アル

ユヘニ数定リテ見ユルナリ

一 城中陣中ヨリ敵ノヒソカニ可退ヲ見分
之夏

敵ノ働日比ニ千カヒ午ツカヒアラキ
カ或ハ兵ヲ出シ戦ヲイトミ我ヲ芳セ
シムル丁アルカ或ハ陣前ニ俄ニ柵十
トツケ長陣ノ躰ヲ十ス此皆油断ヲ十
サシメシニ為也其夜必退ヘシ此類ハ云
尽難シ推計知ヘシ

一 見セ旌守リ旌見分之夏

一 旌ハ並揃テ不動守リ旌ハ少ク動

一 夜軍物見只之之夏是ハ夜戦ノ巻ニ有

カキ物用間恐ヒヲ用ルヨシ

○地取見様武功之夏

一 山川海陸其処之司ル処ヲ見分ル事

凡地取ニ此四ツ離ル、丁十シサテ其
処山ニテモ川ニテモ海ニテモ陸ニテ

云 便リトナリ司トルルルモ人也夕
トヘハ此地カヲモ或ハ海カヲモト云
ルヲ氣ヲ付テ見ル丁肝要ナリ

一 守ルサ、ユル戦三ノ場所見分ノ事

地敵ニ因テミユル也守ルハ切ルニテ

二 久シク守成ヲナスニ便リアルルル支ハ

一 川沼ナト敗ノ要害ニ用兵暫ク支ヘラ

ル、ル戦ハ平陸ノ場也然レハ險阻ヲ

前ニシテ備タルル此守ル敵或ハ坂ノ

不下リ口川杯ヲ前ニメ扱タルハサ、ユ

一 所ル敵也平野ニ備タルル戦フ敵トミル

ヘシ

一 河アルルニ浅瀬ヲ知ヌ郷導瀬フミヲ入

テ其ルヲ考川岸水ノ流人跡水色波色或

ハ敵ニ因テ習口傳

郷導ハ其ルノ郷人ニ向テシル瀬フミ

ハ水練ヲ入テミル也川岸ヒキハ浅

ク高キハ深シ水流ルハヤキハ浅シ

ユウナルハ深シ人跡ハアサキルハ里
人ノ常ニ往来シタル跡左右ノ土居ニ
アル也水色アヲキハ深ク白キハ浅シ
波色アサキルハサ、波アリ深キハシ
ツカニノウツニフ也款ニ因テ習ハ浅
瀬ハ我知テ渡ルヘシト考敵其備ヲ十
スモノ也

一 河原石色河ノ上下ノ様子ヲ以川ノ出ル
不出干落ル考之事

常ハ水ナク石原ニテ雨フレハ水ノ十
カルハヲ河原ト云也石色洗ヒアケタ
ル如クニテコケナト付テアルハ常
少ノ雨ニテモ水出ル河原也石白ク砂
土ナト付テ居草ナトモハヘテアルハ
水ノ常ニハ不出ル也河ノ上近ク大山
ニツ、キタルハ少シノ雨ニモ水出ル
モノ也河上遠ク曲折テ来ルルハ水ア
マリ出サルモノ也河下次第ニヒキク

弁ヒラケ大河海へ近クツ、キタルル
ハ水出テモ早ク干落ル也河下遠ク地
取高クセトトアルルハ早クハ不
干落モノナリ

一 海辺へ取ノ上ルへキ地上ル間敷地見分
之事

床海ニテ磯キハヨリ深キルハ舟着ヨ
キ工へニ取上ルモノ也遠浅ニテ大ニ
満干アルルルハ上ラヌモノ也

一 沼田足入泥ヲ見分之変テ土色水色地ノ

取粧植並カリカフ草色ヲ以テ可知変

土色黒キハフケ也砂地石地真土ハ足

入ニ非ス水色カチケ出タルハフケ也

地ノ取谷合十トフケ有モノ也植並苗

ノ並不揃モノ也カリカフ稲ノカリカ

フ長ノ不揃也草色黄ニノ長キハフケ

也黒ク横ニヒラミタルハ足入ニ非ス

一 伏英ノ地ヲ知事 伏戦ニ出セリ

林木衆中多キ礼ニ伏アルモノ也

○夜中物見武功之事

一 夜ル堀ノ深サ水ノ上ヲ見ハカルニ水ニ

目ヲ付ス向ノ土居ニ目ヲ付テ可見計更

、夜ハ水少シアリテモ水上ハ七八分モ

アル如クミユルモノ也故ニ岸ニ目ヲ

付テミルカヨキ也

一 敵陣敵城之火更ノ取アルトヨリ見レハ見

違へアルモノ也

先衆ノ旌差物堀際ニアル如ク益テ目

ルモノ也故ニ先衆ノ陣場迄行テ其間

ニテ見ルカヨキ也

一 心ニ疑ヒアル片ハ尺木森林十丈モ敵ノ

出タル如ク見ユルモノ也

、長短大小動不動ニ氣ヲ付ヘシ右ノ三

条ハ大カヒヲ云取ニ隨ヒ視觀察ノ心

アラハ疑ヒアルヘカラス

一 夜中物見ハ三者ヲ用ル徳アル更

初ノ三者ヲ用ル也騎馬ノ物見ハ敵ニ
トカノラレテモ隠レカタシ歩兵少ノ
ルヘモ恐フ丁安シ
○八重英ヲイトフ物見之更
敵ノカミリタルルヘ此方ヨリ伏ヲ置
テ八重カミリト云ハ重トハ重ルノ美
也花ノヤウノ多キヲ必ハ重ナラサレ
氏ハ重咲ト云カ如シ伏ハ上カク先
伏タル方ニ利アル故ニ伏ヲ置片ハ物

見ヲ用テテ敵ニ用心ヲオスナリ則物
聞ヲ用テ更ニ備ル事ヲ思フ
一カキ物圃并草ヲ結フ更ニハ
カキハ味方ノ人数ヨリ五丁モ三丁モ
先へ行サナリヲ聞也其跡ニツキテ
物聞ヲヤル也カキノ行タル道ヲ跡ニ
知為ニ草ヲムス七置カヨキ也或ハ紙
ヲムス七付置類ニ也タトハハカキ敵
ニ行カ、リタル氏ハ細談ナラ以テ

敵ヲ了サムキ争フ物聞跡ヨリ是ヲ聞
テ昂敗ニ跡ヘシラスル也胸勢是ヲ聞
テ趣次第ニ働ク也

○物見武者心得之変

物見ヲワトムルモノ身カラノ心得ヲ
云ナリ相

一 物見武者自分ノ功ヲ思フヘカラナル変
又ハテ役美ヲ勅ルニ我功ヲ思フハ
其役ニ了ヤニ了リテ忠美ニヲ久ル

ル了リ別テ物見ハ大功ノ役ナリハ

一身ノ功ヲ思ハス専ニ勅ル心得也

是則其者ハ大功也夕トハハ敵陣迄ク

出テ敵我ヲ討ニト大勢追来ル了ル

ハハ馬ヲ引返其処ヲ遁シテ敵ノ様子

ヲ言上スル了是物見ノ口ナ也然ルニ

逃ルハ武士ノ本意ニ非スト思ヒ踏止

テ戦ヲナス是自己ノ功ヲ思フ也万一

其場ニテ討死ヲナスハ其役ヲ矢ノ

主君へハ大ナル不忠也
御使ニ行様行知ノ事
旌本ヨリ諸午へ使ニユク其行様行知
トハ只今戦ヲ始メヨト使ニ行氏ハ後
陣へユキ達メ次第ニ告テ先午へ行心
ナリ是ヲ先午へ先ニ行テ達スル氏ハ
不日夕後陣へ行届ケルウ午ニ戦ハシ
ニリテ不直也或ハ又先午ニテ午合
流ヲ象ル力討死ス下遂ルカスル氏ハ

命令ヲ通スルノ事不成也故ニ其事其知
ニシタカクテ右ノ心ハ不
キナリ

一 勇怯ヲ離ルノ事
イサミヲソルトヨム心イサミホ
レハ是ニ氣ヲウハレテ敵ヲ侮リテ
一 万事見違ルナリ心ツタナク臆スレ
一 ハ敵ヲ恐レテ万事見違ルナリ故
此ニツテ離レ万莫其道理ニ從テ見ツ

モルヘシ
一心ノ付ルニ心ヲ付見ル知ヲ見聞知ヲ聞

見知ヲミルハ夕トヘハ物見ニ出テハ
山林衆中アレハ歎ノ伏ハ十キカト心
露少キカト氣ヲ付テミル旌アレハ證
並ノ揃不揃ヲ氣ヲ付テミル人意ナリ

一 萬之本ヲ知事
萬事ヲヨク見積リテ其本ヲタテ
レハ夕シカトラス本ハ歎味方ノ変
一 聞知ヲ聞ト夕トヘハ君命ヲ受テ使
行氏主人ノ口上ヲ午尔葉返モ不残
覺不テハモ人ニ非ス故ニ先此度
使ハ如此様ノ卦ト云知ニ心ヲ付テ其
口上ノ要ノ知ヲ聞取心也万変如此道
理ニ心ヲ付見聞スルノ肝要ナリ
一 萬之本ヲ知事

ニヨリテ働クモノホレハ歎カユラミ
ツモリタル上ニテハ又味方ノ不慮ニ
氣ヲ付考フヘシタトヘハ河向ノ歎ヲ
ミルニ河越ノ身コシラヘテ十スハ川
ヲ越歎トミル此習ハカリテハ見違ル
トアリコトテ味方ノ上ニ氣ヲ付テ我
ニ不意虚アリテ歎コユルハ彼ニ利
アルカト考ヘハカルナリ身拵ヲナシ
テモ我備全キハ歎来ラシ

一 視 觀察之變 其變ヲ見テ其フニハ知ヲ

觀シ其本察ノ其疑ヲ定ル變

三字氏ニシルトヨム字也視ノ字ハ秋
ノ上ニ付テアラハルハ知ヲミルナリ
觀ハ其秋ニツキテ其道理ヲ心ニ觀念
シミル也察ハ其道理ニ付テ其起ル知
ノ本ヲタンタヘ明ニ察シミル也タト
ヘハ歎ノ人教ヲミルニ一万トミル是
視ノ目也一万トミルハ知狭キユヘ力

或ハ外ニ隱勢ハ十キカト心ニ思案ノ
見ル是觀ノ目也視觀氏ニイヨミ一
万ト見積ル氏其二ツヲ捨テ款ノ本ヲ
考ヘ分限加勢後詰ノ有無ヲ計テミル
是察ノ目十リ万変ヲ此道理ヲ以テ氣
ヲ付ル丁尤所要十リ

一 辨 察 之 儀 全 其 變 之 具 其 一 二 八 成 七
辨 其 本 察 其 變 之 具 其 一 二 八 成 七
一 辨 察 之 儀 全 其 變 之 具 其 一 二 八 成 七



Handwritten marks, possibly a signature or initials, located at the bottom center of the left page.

